

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200222		
法人名	株式会社 ケアインベーション		
事業所名	グループホーム ひなた日和		
所在地	栃木県足利市本城1丁目1578-1		
自己評価作成日	令和4年11月8日	評価結果市町村受理日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなた日和の掲げる「生きがいと尊厳のある自立した生活と自己決定」が出来るよう、また皆様の「笑顔」が見られるよう、日々入居者様とともに生活を送っています。四季の感じられる自然豊かな閑静な場所に位置しており近隣の散歩や敷地内の畑で思い思いに生活されています。新型コロナウイルス感染拡大前までは、施設内行事に地域の方に参加して頂いたり、近隣協力施設の催事に参加したりと地域との関わりがありました。毎月、外出行事や季節を感じられる行事を開催し、利用者が役割や楽しみを持って、日々の暮らしに満足が得られるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市の中心部にほど近い住宅街にあり、閑静で落ち着いて暮らせる環境にある。職員は事業所の理念を念頭に置きながら、利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごせるよう日々支援に取り組んでいる。毎日の日課に機能訓練や紙芝居、歌などのレクリエーションを多く取り入れ、健康管理と楽しみごとの支援にも努めている。職員同士の関係性が良く、コミュニケーションも良好に取れている。職員からは利用者を人生の先輩として尊重したり感謝の気持ちで接する意見が多く聞かれ、職員一人ひとりが利用者を尊重した支援と働きやすい環境づくりに努めている。食材は地元のスーパーや直売所から仕入れ、利用者の希望も取り入れながら毎食手作りの食事を提供するとともに、食事時は適宜見守り声掛けをしながら、日々の食事が楽しめるよう支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和4年12月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とホール間の掲示板に理念、職員像を掲げ実践につなげていけるよう努め、職員は理念を共有し日々の生活の中で信頼関係を築いていけるよう実践している。	職員は一人ひとりが理念を理解し、家庭的な雰囲気づくりに努めるとともに、笑顔を絶やさず利用者に接し、心地よい場所となるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏には子ども神輿が来所し休憩場所の提供をしている。近隣施設の行事の際には回覧板を回していただき参加して地域の方々と交流を図っている。コロナ禍にて中止となっている。	自治会長や民生委員とは顔なじみの関係を築いている。コロナ禍以降地域との交流は難しくなっているが、散歩時に近隣の方と挨拶などを交わしている。地域の一員として、年末には事業所先の用水路のゴミ掃除に利用者とともに参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方から認知症の人の理解や接し方の相談を受けた場合、助言等をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し利用者の動向、活動状況、事業報告のほか、他業種の方への参加への呼びかけを行い意見交換しサービス向上に繋げているが、コロナ禍にて書面提出となっている。	運営推進会議はコロナ禍以降、書面での開催であるが、民生委員や自治会長には事業所の運営状況について直接報告し、市や地域包括支援センターには書面での報告を行っている。過去には駐在所の参加があり、情報の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないこと、確認したいことがある際には連絡を取り協力関係が築けるよう努めている。	市担当者とは、利用者の介護保険証の更新などを通じて、関係性を築いている。新型コロナワクチン接種では、事業所内で接種ができるよう市担当課と調整を図った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室窓は安全のため施錠している。天気の良い日など網戸にて見守り対応をしている。身体拘束をしない介護を心がけ、その考えを共有している。	職員会議などの情報交換の場で、身体拘束をしないケアについて話し合っている。スピーチロックも含め、職員同士が日頃から気づいた時にはその都度声掛け、注意し合う関係性を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の日々の状況を把握しちょっとした変化を見逃さないよう情報共有し、職員会議にて話し合っている。また、職員同士注意できる環境にしている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できるよう学びの場、取り組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族に説明を行いながら疑問、不安な点を尋ね、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の電話、面会があった際には現在の様子を報告し、その際に、意見、要望を伺い反映できるよう努めている。	家族に対しては、月一度の面会の際に利用者の状況を報告している。利用者からは食べたいもの、やりたい事などの要望を聞き取り、実現できる事については取り入れている。	コロナ禍で面会の機会も短時間になっているため、個々の利用者の状況を伝えるお便りを出したり、家族アンケートを実施するなど家族に対し積極的に利用者の状況を伝え意見を聞き取る取組を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議、申し送り、休憩時間の会話などで提案、意見を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。	管理者やグループ代表者にも意見等を言える関係性ができている。管理者や代表者も職員に気軽に声を掛けるなど、意見等の出やすい雰囲気づくりに努めている。業務時間帯の変更や備品の購入等について職員意見を反映した実績もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が心身に負担なく働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や勉強会に参加できるようにスキルアップに繋げている。また管理者の定例会議にて勉強したことを職員会議にて報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度の定例会議やグループ全体での研修会、勉強会にて交流を図り情報交換、共有をしサービスの向上に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し本人の不安、要望などを伺い安心してサービスを利用していただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っている事、要望を伺い安心して利用していただけよう努め、コミュニケーションを大切に信頼関係が保てることに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「グループホーム」の説明、サービスの内容など相談しながら必要とするサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに合った、生活リズムを大切に出来ないことは一緒に行い、心身ともに支えあえる関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人への介護に対する思いを理解し共感し信頼関係を築いていく事に努めている。家族の面会の際には日々の様子を伝え情報共有するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会において馴染みの方との時間を大切にさせていただき有意義に過ごしていただけるよう努めている。また関係の継続ができるよう支援している。	馴染みの場にドライブに行ったり、友人等からの電話や手紙の取次ぎを行っている。入所前に畑仕事を楽しみにしていた利用者には、事業所近くに畑を造り、野菜づくりを楽しめるよう環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置などでご利用者それぞれの性格、介護度により楽しく過ごせるように配慮し、日々の支援に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても家族との関係を大切にしながら気軽に相談できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・行動からニーズの把握に努め、定例会議申し送りなどで検討し希望に添えるよう努めている。	歌や散歩が楽しみな利用者には、レクリエーションの機会を設け楽しんでいただいている。意向の表出が困難な利用者についても、本人の生活歴から類推したり表情などから本人本位に検討している。思いや意向は申し送りに記録し共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント資料や本人、家族からの情報や会話から生活歴を把握しその人に合った場の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状態把握に努め気づきがあった際には申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い意見アイディアをもとに現状に即した介護計画を作成している。	利用者の状況を把握し、かかりつけ医の意見も反映させて、利用者本人が楽しく暮らせるよう配慮しながらケアプランを作成している。	本人や家族からの意見をより反映するとともに、細かにモニタリングを実施するなど現状に即したケアプランを作成するため更なる取組を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他者が記録を読んだとしても、その方の様子がわかるような具体的な記録がされるように取り組んでいる。情報共有し介護計画に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に配慮し、その時のニーズの把握に努め、臨機応変な対応ができるよう努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域行事は行われてないがご利用者の思いに沿った外出など暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医との関係性を大切にしている。本人、家族の希望があれば施設協力医の往診を受けている。	2か所の医療機関から訪問診療を受ける体制ができています。専門外の診療については、原則家族付き添いとしているが、難しい場合は職員が対応している。受診状況等について、家族との情報の共有も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変にいち早く気付けるよう注意している。迅速に対応できるよう些細な事でも情報共有し看護師と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、地域連携シートを使用し情報交換し電話などでも情報交換、相談を密に行い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に十分に説明し理解を得ている。現実的にターミナルケアが必要になった場合は家族、医療機関、施設でよく話し合い、対応している。	食事が摂れなくなるなど重度化した場合には、家族やかかりつけ医と話し合いをもち、希望があれば、かかりつけ医や訪問看護などと協力して看取りまで行っている。これまでに3件の看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍の為消防署指導による救命講習は中止しているが、定例会議の時急変時の対応について話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合避難訓練を実施。1回は防災会社、消防署指導にて実施している。日中・夜間帯の想定を行っている。土砂災害時の避難訓練もおこなっている。	火災を想定した訓練だけでなく、土砂災害を想定し避難所までの避難訓練も行っている。非常時に職員がスムーズに動けるよう、やる事をリスト化したり役割分担を明示して非常時に備えている。	

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちに添った言葉かけをするように心掛けている。事業所全体での接遇研修を行い学んだことを実践している。	グループで年2回接遇に関する研修を行っている。トイレ介助では小声で誘導する、ドアの外で待つ、居室入室時にはノックするなどプライバシーに配慮したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築けるよう努めている。そうする事によって、ご利用者の思いを把握しやすくなり理解できていると考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、その時に要望希望また、不安なことを傾聴し、その人らしく安心して生活できるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は利用者と相談し、希望する服を身に付けてもらっている。出張美容室サービスを受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳の仕方等おいしく食べられるよう工夫している。片づけ等手伝ってくれる利用者には、無理なく行える環境作りをしている。	食材は近隣のスーパーや直売所で仕入れている。利用者の希望なども取り入れて毎食手作りの食事を提供している。月1度程度はお寿司などをテイクアウトして提供している。ホットプレートを使ったおやつ作りや自分でデコレーションするケーキ作りなど楽しめるような工夫をしている。できる方は下膳、テーブル拭き、ゴミ捨て等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表を作成し食事量の確認、利用者の状況を把握している。週一回体重チェックを行っている。変化があるようならその都度適切な対応をしている。食事形態はご利用者の身体状況に合わせて食べやすいよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行いなるべく自分で行えるよう支援している。できない所は介助にて行っている。義歯は就寝前に職員管理にて洗浄剤を使用し保管している。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導や、言葉かけを行い支援している。	排泄チェック表を用いて、適宜声掛けを行い自立に向けたケアを行っている。夜間も声掛けしたり、症状が進んでもトイレでの排泄ができるように個々に応じて排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維を含む食事、体操や散歩、腹部マッサージ等個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の要望、状態によっては臨機応変に対応している。入浴中は会話し楽しく入浴してもらうよう努めている。	週2回午前中の中の入浴が多いが、利用者の希望により臨機応変に対応している。入浴が楽しめるよう入浴時間は好みに合わせてゆっくり入ってもらっている。拒否のある方は声掛けの時間を変えたり翌日に変更するなどの対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じた休息が出来るよう支援している。また就寝時は個人のタイミングに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋や申し送りノートで情報共有し理解、把握に努めている。服薬介助時には誤薬がないよう名前と日付の確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を参考にし、その人に合ったレクリエーションや役割を持ってもらい充実した生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日は施設周辺散策、ドライブを行い馴染みの場所、地区に行くなど支援している。	散歩やドライブ等の外出の機会を設けている。利用者の希望に応じて、市内や隣市の景勝地や史跡に出掛けている。また、利用者の状況に応じて、近隣の散歩や畑仕事などの外出を支援している。	

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族へ説明し理解を得てお小遣いをお預かりし、希望や必要に応じて使用できるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者・家族の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では不快な思いが無いよう清潔保持を心掛けている。臭い対策として、消臭剤、空気清浄器等設置している。施設内は過ごしやすい温度に保っている。季節に添った飾り物をご利用者とともに作成し提示している。	室内は空気清浄機、加湿器、ヒーターにより温湿度を管理している。天井は高く木材の梁が掛けられ天窓から自然光が差している。リビングは利用者の様子や外の様子が分かるような見通しよく、共用空間全体が明るく解放感のある造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いに好きな場所で過ごせるようにソファや多目的にある畳を気軽に使っていただけ提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物、愛着のある物を持ってきていただき居心地のいい暮らしが出来るように支援している。	エアコン、ベッド、チェストは備え付けとなっている。冷蔵庫やテレビを持ち込んでいる方もいる。写真や趣味の作品を飾ったり、希望により畳敷きやカーペットに模様替えするなど、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう動線の確保、環境整備に努めている。職員は利用者様の見守りを行い、事故防止に努めている。		